

1. バブルに関する参考文献

- ・「検証バブル 犯意なき過ち」日本経済新聞社編、日経ビジネス人文庫、2001年
- ・「バブルの経済学」野口悠紀雄、日本経済新聞社、1992年

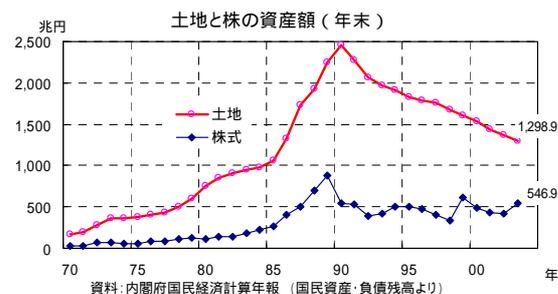
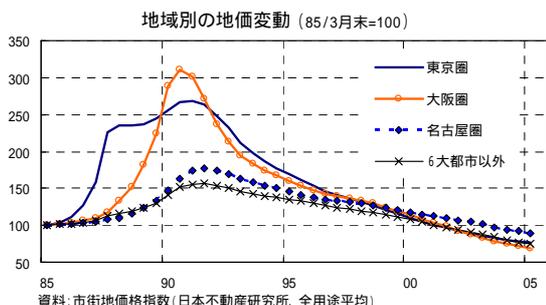
2. バブル期の時代背景: 「国際協調」による低金利政策

- ・日本の経常収支黒字の定着 「債権大国」論
- ・米国の双子の赤字 (レーガン政権の政策、プラザ合意<85/9月>)
- ・円高不況のトラウマ (ルブル合意<87/2月>)
- ・低金利の永続性に対する期待
- ・米国のブラックマンデー (87/10月) と利上げの遅れ



3. 地価の急激な上昇

- ・実需に基づく首都圏での地価上昇 大阪圏・名古屋圏などへ拡大 (大阪では関空も上昇材料) <ただし、地価の上昇度合いは地域間で格差が大>
- ・土地神話の強まり 値上がり期待による土地売り惜しみ or 土地転がし (土地不足感)
- ・担保余力拡大による資金調達力の高まり 地上げの横行、市街地開発型の流通業出店
- ・リゾート開発の盛行 (ゴルフ場、テーマパーク、ホテル等) ... 地方にも波及



4. 株値の急激な上昇

- ・低金利政策の継続期待 (政策協調への期待、物価の安定、「成熟した債権国」論等) + 企業収益の拡大 (高額消費ブーム、稼働率の上昇等) 期待配当流列の割引現在価値 (または期待成長率): **ファンダメンタルズの改善**
- ・地価の上昇 「トービンのq」説の濫用 **株値上昇を正当化する風潮**
- ・ブラックマンデーの発生 (米国の株価暴落<実は一時的>) と低金利政策の維持 (アンカー論も)

5. バブルの経済学

- ・バブルの定義: 「**ファンダメンタルズからの乖離**」 (資産価格の一特性)
- ・合理的バブルの理論的な可能性: 自己実現的予言という性格
- ・期待の経済理論による分析 ... どこまでがファンダメンタルズか?
- ・世界各国でのバブルの経験: 蘭のチューリップ熱(17C)、英の南海泡沫(18C)、米の1920年代など

6. 金融機関経営を巡る環境変化と対応策

- ・製造業における資金需要の頭打ち (自己資金の充実、無借金経営の広がり、起債の拡大)
- ・非製造業への貸出傾斜 (ノバノク建設・不動産業の旺盛な資金需要、リゾート開発ブーム、高額消費ブーム)
- ・金融機関の緩に流れた審査姿勢 (審査力への低下、審査部署の一段の軽量化、担保掛目を引上げる動き)
- ・「向こう傷を問わない」銀行経営の広がり

7. 邦銀の高い格付け

- ・格付機関も邦銀を過大に評価? 邦銀が海外業務を拡大
- ・「邦銀のオーバープレゼンス」に対する海外からの批判
- ・BIS規制の導入 (自己資本によるバッファー) 量的指標の拡大志向を見直す動き 以上

11月26日(土)15~17時に国際経済学科開設記念講演会「進展する経済のグローバル化とアジア」(B館101教室)が開催されます。講演者は松永明氏(経済産業省課長)と川上哲郎氏(元の関経連会長)です。